

「げやき俳句の会」会報(第二百七回)

令和二年十二月

第二百六回句会記録

★日時 十二月二日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

- ① 生かされてブルームーンの後の月
- ② 生き過ぎたと言う人の居て秋逝けり
寂漠と沖の日に鳴く冬鴉

真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎③ 桜落葉どれも虫喰い百面相 一華
- ◎③ 賜猛る重機が入る畑地跡 藍愛
- ◎② 山河を越え来夕日の百合鴟 樹音
- ◎① 校庭に佇ちて懐古や柿落葉 盈光
- ⑦ 軒に柿吊るす家々旭浴び 夢城
- ⑥ 伏姫の祠に降りし冬紅葉 東洋
- ④ 蒲団干す団地住まひで還曆に 久美子
- ④ 憂国忌軌跡壊れて繋がらず 久美子
- ③ 石路の花照らす狭庭の雀たち 秋雲
- ③ 御成道残る鷹野の杜枯るる 一華
- ③ 冬日和水面に紅き橋写し 清明
- ② 公孫樹降る天地静閑一色に 香魚
- ② かつて友と訪ねし古刹紅葉散る 秋雲
- ② 冬の月階六つ浄土へと 隼人
- ① 友の訃を聞き立ち尽くす黄落到 青嵐
- ① 海士の社点しておりぬ石路の花 冬水

★会員互選句

- ⑥ 水鳥や動き忙し濛の綺羅 一華
- ④ 華やぎ去り折れて静かに蓮枯れる 樹音

③ 去来今木の実草の実泣き笑い 夢城

③ 都鳥未練残さず水辺立つ 而今

③ 凧や羽擦り合はす番鳥 隼人

③ 茶の花に添えて焼き菓子供えけり 樹音

③ 花八つ手鎮守の森の巫女なるか 藍愛

③ 冬濤のさざめき聞こゆ北の墓碑 久美子

② 鮪とて生流転皿の上 冬水

② 一人とて濃茶点たし口を切る 真弓

② 小春日や吾子見る母の背の広さ 秋雲

② 百枚を割りし寂しさ賀状買う 蕉哉

② 弥勒仏伏目たおやか京の冬 東洋

② 木の葉髪腰痛ひざ痛我が誉 盈光

① コロナ禍や疑い消えて爛の酒 冬水

① 落葉する木々凜として新たなる 紀泉

① 頬杖で深き秋思や磨硝子 香魚

① 盆栽のハープ三種冬ぬくし 隼人

① 人避けて歩むわき道木の実落つ 藍愛

① 乗っ越せば雄々しき連峰冬茜 清明

【次回開催】

令和三年一月六日(水)

千葉コミュニティセンター

自由句三句